

## 「何に心惹かれる？」

文部科学省では、高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）を策定し、2040年を見据えた人材育成を変革させていくための抜本的な高校教育改革を行うとともに、子どもたちに向けて、心惹かれることに打ち込み、様々なことに挑戦して欲しいなどのメッセージを送っている。職務上、子どもたちが何に興味・関心を持てるのか考える機会が多いが、ふと、一番身近な自分の子どもが何に興味を持っているのか、はっきりと答えられないことに気づいた。自分の子どもが心惹かれることが分からないのにこの施策に関わっていいのか、不安な気持ちを持った私は、子どもがなぜ色々なことをやりたがるのか、じっくりと観察してみることにした。

### 【ケース①：なぜピアノを練習するのか】

子どもにとって、ピアノは友達と遊ぶためのツールだった。ピアノが上手になりたいわけではなく、ピアノ教室で先生、友達と一緒に楽しむために頑張るものだった。そのため、「練習しないと上手になれないよ」と言っても全くやる気にならないが、「この曲みんな大好きだよね。覚えられたらもっと楽しくなるよね」と言うことでやる気になり、練習にも主体性を持って取り組むことができるようになった。

### 【ケース②：なぜ料理を手伝うのか】

料理を手伝うのは「単純に楽しいから」だった。絵本で読んだり、テレビで見た子ども向け料理番組に刺激を受け、やりたくなったのだ。実際はうまくいかないことも多く、すぐに投げ出してしまいそうになるのだが、「〇〇ちゃんの作った料理食べたいな〜」と言ったり、食事後「〇〇ちゃんの作った料理おいしかったからまた食べたいな」と言うと、時間がある時に率先して手伝ってくれるようになった。

私が子どもとの関わりの中で感じたのは、「何を体験させるか」よりも、「どう体験させるか」が重要であり、子どもが小さい時は特に周りの大人の関わりが大切だということだ。子どもは大人が思う以上にいろいろなことを考えながら生活しているし、大人と違った目線で物事を見ている。その中で思い思いの理由で行動しているため、大人の目線で価値づけを行うのではなく、子どもの興味が深められるよう一緒に考えることが大切だと感じた。

ちなみに、今の子どもの将来の夢は「おくりやさん」である。理由を聞くと、「おくりやさんでみんなを元気にしたいから」だった。この興味の芽をどこまで育てることができるか（あるいは他の興味の芽が生えてくるのか）、楽しみながらこれからも関わっていきたい。

(S・T)

